

一般社団法人 全麺協 第11回海外研修  
**モンゴル国にて第2回「日本伝統手打ちそば祭り」を開催**  
 — 中谷理事長が優秀者勲章・勲記を授与 —

全麺協は本年度の海外研修を、昨年に引き続いてモンゴル国で実施しました。昨年度に初めて開催した「日本伝統手打ちそば祭り」は、モンゴル国と国交樹立45周年を記念した民間レベルのものでした。その開催目的は平均寿命が68歳であるモンゴル国民を、「そば食」の普及を通じて食生活を改善し、健康増進を図ることに貢献しようというものでした。本年度は昨年度の実績を受けて、モンゴル国食糧農牧軽工業省と国家開発庁主催による祭事「モンゴル国秋の縁日」のプレイベントとして開催されました。そのため、第2回「日本伝統手打ちそば祭り」はモンゴル国食糧農牧軽工業省と国家開発庁の招聘による国家的な事業へと成長しました。

モンゴル国政府は「そば祭り」の開催を契機として、『日本の「そば食」が健康増進に極めて有効である』との国民的関心を高めて普及浸透を図ろうとしています。さらに、「そばの地産地消」拡大と6次産業化の促進を図るとともに、日本国との友好交流の発展に資することを目指して開催されたものです。モンゴル国の地理的環境や食生活習慣の理由などから、簡単に「そば食」へと変革させることはできませんが、今回の「そば祭り」開催はモンゴル国民に重要な一石を投じたものとなりました。その証として、モンゴル国政府は昨年度からの全麺協の取り組みを高く評価して、食糧農牧軽工業省大臣から全麺協 中谷理事長に「優秀者勲章・勲記」が授与されました。「優秀者勲章・勲記」の授与は、日本人として初めてのことで大変な名誉であるとともに、モンゴル国民に「そば食」を普及させて欲しいと、私たち一般社団法人 全麺協に対する大きな期待の表れであると感じました。以下に、第2回「日本伝統手打ちそば祭り」概要を速報として皆様にご報告させていただきます。

報告者：段位認定部長 横田 節子

1. 日 時 平成30年9月15日(土)・16日(日)
2. 場 所 モンゴル国首都ウランバートル市内 アサ サーカスクローネレストラン前催事場
3. 日本からの参加者 一般社団法人 全麺協 個人会員43名(任意参加)
4. 概 要

第2回「日本伝統手打ちそば祭り」は、9月15日(土)午前11時から開催されました。会場の広さ約300平方メートル、テント張りではありますが常設のものでステージには大型の催事ポスターや両国国旗、全麺協のシンボルマーク等が彩り良く掲示されていました。同会場で開会式があり、主催者側の食糧農牧軽工業省局長、在モンゴル日本大使館高岡全権大使、全麺協 中谷理事長、センゲマツグループ社長のあいさつ等が華やかに執り行われました。



開会式 中谷理事長あいさつ

引続き、今回の参加者の中で80歳を超えている3名(加藤 憲、安田 薫、吉田 寛)と女性4名による「揃い打ち」を披露しました。今回のそば祭り開催はモンゴル国の健康増進、特に同国民の平均寿命が68歳と国際的にも短いため、これを伸ばすための「食生活改善」を大きな

目的の一つとしていました。そば食を振ることによって、80歳代になっても元気にモンゴル国を訪問してそば打ちができるということを象徴的に表したものでした。そば打ち解説をしていた板倉副理事長が、元気にそばを打っている3名のことを紹介すると、会場からは「オー」という大きな歓声が一斉にあがりました。

打ち上げたそばは準備した釜場で茹であげ、かまぼこ、揚げ玉、糸唐辛子、花かつお、ネギをトッピングした「かけそば」として来場者に食べていただきました。皆さんからは「美味しい！」と絶賛の声が聞こえました。

2日目となる9月16日(日)は、午前10時からそば打ちを始め、来場者に「かけそば」を提供しました。しかし、そば打ちを体験したいという方が沢山おられましたので、マンツーマンでそば打ち指導を行いました。全員が初めてのそば打ち体験でしたが、器用に打ち上げて、もっと練習したいという方も見受けられ、そば打ちに強い興味を持たれたようでした。

2日間で1200食のそばの提供と、20人に対して「そば打ち実技指導」を行い、モンゴル国の方々に日本の「そば」「そば打ち」の魅力を知っていただくことに、予想以上の大きな成果をあげることができました。



揃いそば打ち



そば打ち指導

中谷理事長に  
勲章を授与



「日本伝統手打ちそば祭り」が終了した10月16日の夕刻、ウランバートル市内のレストラン「ゆたか」に於いて、食糧農牧軽工業省主催による「慰労パーティ」を開いていただきました。パーティの席上、モンゴル国 食糧農牧軽工業省「優秀者勲章・勲記」が中谷理事長に手渡されました。この勲章を受けたのは、中谷信一理事長が日本人として初めてであり、今回の「そば祭り」が大きな成果をあげ、その事にモンゴル国が感謝していること

の証となりました。その後は、馬乳酒やウオッカ等地元酒を振る舞っていただくとともに、モンゴル国のテノール歌手、ソプラノ歌手によるカンツォーネなど素晴らしい歌の披露もあり、非常に心のこもったおもてなしを受けました。



## 5. その他

今回の海外研修は第2回「日本伝統手打ちそば祭り」の参加だけではなく、モンゴル国内の実情等についても視察してきましたのでご紹介します。

### (1) ダンバダルジャー日本人墓地

第2次世界大戦後にシベリヤに抑留された日本人60万人の中から1万2千人がモンゴル国に送られ、ウランバートルの都市建設や地方での労働力にとして徴用されました。冬はマイナス30度以下になる極寒の気候と、最悪な生活環境の中での重労働、飢え、伝染病などの要因から1600人余りが亡くなりました。このうち、853柱がダンバダルジャーの地に埋葬されたという歴史的な事実があります。同所に2001年に慰霊碑が建立され、同敷地内には「諸史よ日本は見事に復興されました。同地で安らかにお眠り下さい」と揮毫された木製の柱とともに記念館も建設されていて、日本の歴代首相や政治家が献花した花等が保存されていました。昨年もこの墓地は参拝して慰霊をしましたが、今回は参加者全員で花束を奉げて深く慰霊をしてみました。



### (2) 新モンゴル日馬富士学校

元横綱 日馬富士は、角界から引退しましたが、引退する前から日本式の教育に関心を寄せていました。母国に日本式の教育を根付かせたいとの思いから、既にウランバートル市郊外のチンギスハーン国際空港の近くに校舎を建設中でした。この学校が9月1日に開校したとのことでしたので、同校を訪れて校内を視察見学させていただきました。小中一貫教育で規律正しい日本式教育が実践されていて、女子生徒は日本のセーラー服が制服として採用されていたことが大変に印象的でした。元横綱 日馬富士は引退時に大変なバッシングを受けていましたが、この訪問を通して見識の高い横綱であったと感じ入りました。



### (3) テレルジ国立公園

ウランバートルから東方約60kmのテレルジ国立公園に向いました。バスで2時間程かかりましたが、途中には新国際空港開設地域のビル建設ラッシュの地域がありました。昨年に訪問した10月中旬に比べて1ヵ月早いためか緑の草原が延々と連なり、所々にゲルが点在してモンゴルの広大な風景を車窓から眺めることができました。日本と違って水田や畑に植物を栽培しているところはなく、草原一面の遊牧民族の自然環境が良くわかりました。公園入口にはゲルが集合している集落があり、道路脇には小石を2メートル位積み重ねてその頂点から旗が放射状にひらめく鳥葬の墓オボーがありました。そばに大鷹が3羽紐で括られており、鷹を腕に掲げて写真を撮影することができるようになっていま

した。ここから数kmのところにはゲルが集合し、その中心にレストラン、ホテルがありました。付近には観光用のゲルが数十棟建っていましたが、ゲルの中はホテルの個室的なもので現地のゲルとは設備が全く違っていました。

また、数kmのところはこの公園のシンボルとなっている「亀石」へ行きました。亀石は巨大な岩石が亀の姿であることからこの名称になったということでした。



鳥葬の墓オボー

#### (4) 国立歌舞劇場

ウランバートル市の中心部に国立歌舞劇場があり、9月末まで毎日午後6時からモンゴルのトップクラスのアーティストによる民謡や民族舞踊などが公演されていましたので、これを鑑賞することができました。モンゴルの独特な裏声によるホーミーや馬頭琴の演奏、仏教仮面舞踏ツァム、伝統楽器によるアンサンブルは実に見事でした。

#### (5) チンギスハーン像

今回モンゴル初参加の方は、9月14日にテレルジ国立公園内にあるチンギスハーン像を見学しました。バスで片道約1時間30分ほどを要する長丁場でしたが、モンゴルでは一大観光地ですので、是非とも一度は見ておきたい所の一つです。

### 6. 成果

今回は第二回目のモンゴル国への海外研修ということであり、中谷理事長は事前に2回も現地を訪れて打合せと現地視察を行っていました。そのため、現地の担当者との連携は非常にスムーズに行われました。ただ、モンゴル人特有のおおらかさのせいもあり、多少の思惑の違いはありましたが、日本の伝統的な手打ちそばの魅力をモンゴル国民に理解してもらうための一石を投じ、この波紋が今後は確実に広がって行くものと確信することができました。また、前記した通りモンゴル国政府が全麵協の取り組みに高い評価をしていて、日本から参加した方々の感想は大満足でしたので、今回の海外研修は大成功だったと実感しています。



参加者全員で記念写真